

平成 28 年度浜松市医療奨励賞受賞者及び研究概要

※受賞団体名五十音順

受賞者	一般社団法人 浜松市歯科医師会 成人歯科専門部会 (代表 朝比奈尚之)
論文名	一般社団法人 浜松市歯科医師会における口腔がん早期発見事業への取り組み
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> 先進国では口腔がんの死亡者数が減少しているが、我が国ではいまだ増加傾向にある。海外との比較から、口腔がんに関する歯科医師の教育体制が不足していることが、この一因ではないかと考えた。 そこで、講習会、実習、症例検討会等を行い、市内歯科医師の口腔がんのスクリーニング技術の向上に努めるとともに、スクリーニングから治療まで切れ目ない医療が行われるよう、診療所と病院口腔外科の連携体制の構築に取り組んだ。 また、市民を対象に公開講座、無料相談を実施することで、口腔がんについて市民の理解を促し、予防対策の啓発に努めた。 全がんの中でも総数が少なく、対策が進みにくい口腔がんに対して、他の地域に先駆けた今回の浜松市歯科医師会独自の取り組みは、口腔がんの早期発見・早期治療の医療体制の確立につながるもので、その意義が高く評価された。

受賞者	浜松医療センター 歯科口腔外科・感染症内科 (代表 内藤慶子)
論文名	浜松市における HIV 感染者/AIDS 患者の歯科治療体制の整備
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> エイズ治療中核拠点病院の立場から、HIV 感染者/AIDS 患者に適切な歯科診療が行われているかについて、患者の歯科受診状況及び歯科診療所における感染症対策の現状に関するアンケート調査等を行った。 その結果、①「紹介先が見つかりやすい病診連携システム」と、②歯科医院における標準予防策の必要性が明らかになった。 そこで、浜松医療センター歯科口腔外科と歯科医師会の窓口で直接患者紹介を行う新たな病診連携システムを作り運用を開始するとともに、研修会等を行ったところ、かかりつけ歯科を持つ患者の割合の増加、歯科診療所での感染症対策の充実につながった。 本市は多数の世界企業が立地し、在住外国人も多い地域である。こうした環境において感染症対策は極めて重要であり、市民の身近な存在である診療所の医療レベルの向上、ひいては市民の安全に寄与するものと、その意義を高く評価された。

受賞者	浜松市医師会 予防接種委員会 (代表 今西雅彦)
論文名	水痘ワクチン定期化に伴う浜松方式の導入過程とその効果 ～9月前倒し接種と、3・4歳児任意接種後の2回目接種も公費助成～
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水痘ワクチン定期接種（2回接種）について、平成26年10月からの開始にあたり、既に1回接種した3・4歳児は2回目の接種が公費対象とならないため、2回目の接種をしないうちに罹患してしまうこともあり、水痘の発症予防効果が不十分となることが懸念された。 ・ 予備調査の結果により、追加接種の対象児が市内に約6,000人いることが推定されることから、「1回接種歴のある3・4歳児の接種に対する助成」及び「接種機会の拡大のため、開始時期の前倒し」を浜松市に要望し、定期接種開始より1か月早い、平成26年9月から実施された。 ・ 効果については、公費接種問診票・浜松市小児科定点からの報告及び時系列の分析を行った結果、「3～4歳児の集団免疫率が79%から90%以上になったこと」、「今回の対策が水痘の発症抑制に有効であったこと」が分かった。 ・ 独自に徹底した調査と分析を行い、予防の対象範囲を広げることで市民の健康保持に寄与するとともに、対策の導入による臨床的効果についても詳しく検証していることから、その意義は高く評価された。